

佐 渡 മ 金 銀 山 史 を彩る人

マ

\bigcirc 質がしますのい かった 有なもん (1564~1627)

えたといわれています。 代に仕え、武田家滅亡後は徳川氏に仕 斐国山梨郡鎮目村(現在の山梨県笛吹 まで佐渡奉行を勤めました。 に属して出陣し、 (1618) 出身で、 関ヶ原の役では徳川秀忠の軍 惟れ 明き ~寛永4年 父は武田信玄、 ۲ 信州真田の上田城攻 惟明は父の後 (1627) 元 先祖は甲 和 勝頼2 4

めでは七本槍の一人として活躍しまし



▲長谷寺にある竹村 奉行の五輪塔

▲小木光善寺にある 竹村奉行の供養塔

(1845)に建てられたもので、昭葬られました。現在の墓は弘化2年 にて64歳で死亡し、下相川吹上浦に鎮目奉行は寛永4年7月14日、佐渡 指定されています。 和33年 (1958)、 新潟県の史跡に

○**竹村九郎右衛門**(生年不詳~1631)

~寛永4年 であったといいます。 葛城市)の出身で、 ました。 行と共に、 宗信者で、 (1631)まで一人で佐渡奉行を勤め 名を嘉政といい、 大和国竹内村(現在の奈良県 鎮目奉行亡き後は寛永8年 相川一丁目に広源寺を建て、 (1627) までは鎮目奉 元和4年(1618) また、 大久保長安の家臣 熱心な浄土

ことが知られています。

竹村奉行は寛永8年9月15日、江戸で

した。

木を結ぶ相川往還もこの頃整備されま

た小木港の開発が進められ、

相川と小

長坂町にあった光善寺を小木に移した

あげました。

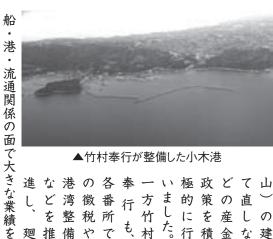
特に金銀の積出港であっ





▲佐渡一国通用印銀 (一分銀) 中央に「徳」の文字が みえる

▲佐渡小判 裏面右上に「佐」の文字 がみえる



▲竹村奉行が整備した小木港 い極政 な 港 0 各 ど 7 方竹 策を どを 湾整 徴 番税 所 ました。 的に 行 \mathcal{O} 産 L ŧ 廻推備やで 村 行積金

○鎮目·竹村両奉行の時代

善寺に葬られたとする説もあります。 られましたが、佐渡で亡くなり、小木光 亡くなり、新宿区牛込にある大信寺に葬

から、庶民から「鎮目さん」と称され、師の救済策や民政の安定を講じたこと

佐渡在住が多かった鎮目奉行は、

山

長らく相川の人たちに慕われてきまし

た。起源は不明ですが、毎年旧暦の4

や資材の貸付、 価の2割安での米の販売や、 ました。 が豪華すぎるとして規模の縮小を行い 奉行はまず、 上の最盛期とうたわれています。 竹村両奉行支配の10年間は、 佐渡一国で通用する極印銀の発行など に後藤役所を設けて佐渡小判 元和から寛永初期にかけての鎮目・ 山師に対しても、 また、相川の人々に対する市 経済流通の安定を図りまし 大久保長安の建てた陣屋 鉱山経営の資金 (幕府直営の鉱 奉行所内 金銀山史 の鋳造 鎮目

まで金銀を運ぶ小早船の建造に尽力しも港に寄港する廻船や、相川から小木

たことから、

「が現在も残されています。

供養のための巨大な五輪 船材の産出地小倉に近い 事が行われていたそうです。

竹村奉行

月14日を鎮目祭として人々が集まっ

て、墓前に花や線香を供えるという行

◆教育委員会 世界遺産・文化振興課 27 -4170